

東洋大学校友会埼玉県東部支部会報《リーフレット版》

彩の国さいたま

第10号

作成：2021年9月21日 (一社)東洋大学校友会 埼玉県東部支部 広報部

この「彩の国さいたま」リーフレット電子版は、校友会埼玉県東部支部の最新の活動状況、企画案内、会員の動向などの情報を、支部会員の皆様に年数回、不定期でお届けするものです。速報内容は、支部役員および会員の皆様から頂戴した情報を写真とともにまとめています。なお、リーフレット版は、画像電子版として作成しています。子版として作成して、支部ブログにも掲載することを基本にしています。支部のFacebook登録会員の皆様にも配信します。奮ってお読みいただきたく存じます。

支部広報担当(副支部長) 黒井 登起雄



【寄稿】
川越キャンパスの今昔と
思い出のキャンパス初めて物語③
副支部長 黒井 登起雄
(昭和46年院修士木)

【プロローグ】
 思い出のキャンパス初めて物語①、②に続いて第3段の東洋大学「硬式庭球部の始まり」を当時の「部報」(写真1)を基に思い出してまとめ、東洋大学硬式庭球部&テニス部の歴史を振り返りたいと思います。

【東洋大学の「硬式庭球部の始まり」】
 昭和40年創刊の「部報」(創刊号)によれば(写真2)、東洋大学の庭球

部は、昭和36(1961)年の『硬式・軟式庭球同好会』発足から歩み始め、現在の理工学部体育連盟の硬式庭球部(川越キャンパス)および白山体育連盟のテニス部(朝霞キャンパス)へと繋がっていることが判ります。

写真2.1~2.3は、「部報」創刊号の庭球部の誕生の経緯が読み取れる草創期の歴代主将3名の記述内容です。荒川脩司氏(昭和40年機械)は、『硬式庭球部五年の歩み』(写真2.1)を、渡辺伊佐夫氏(昭和40年応化)は、『創立時の思い出』(写真2.2)を詳細に記載されています。



写真-1 硬式庭球部の「部報」(1965年創刊号以降、第8号まで)

部は、昭和36(1961)年の『硬式・軟式庭球同好会』発足から歩み始め、現在の理工学部体育連盟の硬式庭球部(川越キャンパス)および白山体育連盟のテニス部(朝霞キャンパス)へと繋がっていることが判ります。

写真2.1~2.3は、「部報」創刊号の庭球部の誕生の経緯が読み取れる草創期の歴代主将3名の記述内容です。荒川脩司氏(昭和40年機械)は、『硬式庭球部五年の歩み』(写真2.1)を、渡辺伊佐夫氏(昭和40年応化)は、『創立時の思い出』(写真2.2)を詳細に記載されています。

す。更に、昭和39年の主将であった仁科健治氏(昭和41年機械)の前年度からの部活動の報告(写真2.3)からは、より具体的に活動の時系列が読み取れます。資料によれば、昭和36年の工学部開設時から、「工学部体育連盟」「体育会川越支部」などが組織化され、バレーボール、ワンダーフォーゲル、(硬式)テニスなどの同好会が発足し、同好会の学内における立ち位置などが模索されていた模様です。工学部の「硬式庭球部」は、昭和37(1962)年に、「硬式・軟式庭球同好会」の分離によるクラブ運営の合理化と技術強化を目指して独立し、硬式テニスの大学代表となつていきます(硬式庭球部の誕生であり、部長に大越 諄工学部長を迎えた)。硬式庭球部のキャンパス内の当時の練習環境は、「コートとは名ばかりで、砂漠に草が生えた様なもので、風が吹くと土煙が舞上り、バウンドも不規則で正常なテニスが状態であった」「仕舞いには・・・コートに愛想を尽かして遊牧民よろしく方々のコートを点々として練習した」と記載され、非常に厳しかったことが推察されます。昭和38年に漸く、キャンパス内設置のコート一面が工学部専用になっていきます(その後、工学部専用コ

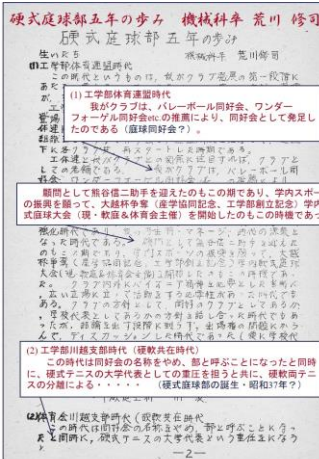


写真-2.1 硬式庭球部「部報」、創刊号(昭和40年)その1

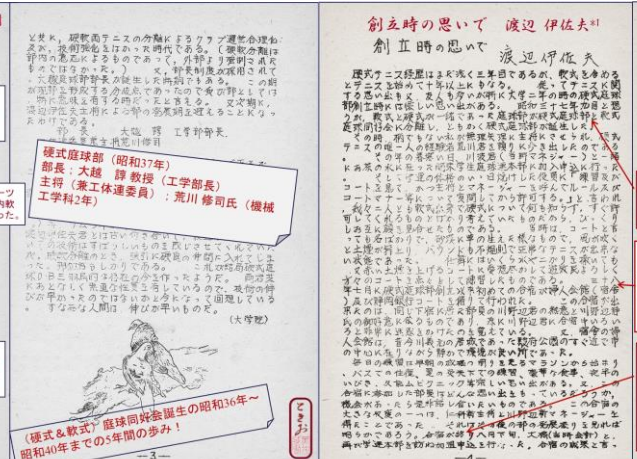
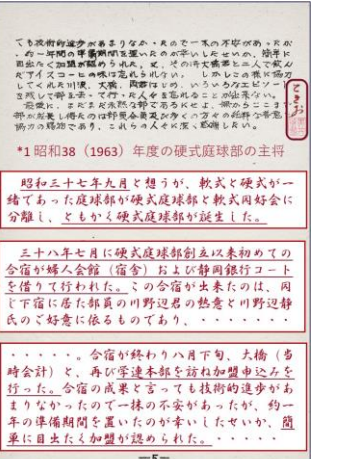


写真-2.2 硬式庭球部「部報」、創刊号(昭和40年)その2



和暦年月(西暦)	摘要
昭和36年(1961)	硬式&軟式庭球同好会(工学部体育連盟)誕生
昭和37年(1962)9月	硬式庭球部の誕生(工学部体育連盟) (硬式庭球部と軟式庭球同好会に分離) 現在の硬式庭球部(川越体育会加盟、川越キャンパステニスコート)
昭和38年(1963)7月	硬式庭球部初合宿(静岡市・静岡銀行コート)
同年 7月	関東学生庭球連盟に加盟
同年 10月	初対抗試合(埼玉大8-1東洋大) 埼玉県庭球協会(連盟)に加盟
昭和39年(1964)3月	関東理工科系庭球連盟(通称・理工連)に加盟
同年 4月	関東学生庭球連盟6部リーグ戦(1勝5敗)
昭和40年(1965)9月?	白山キャンパスにテニス愛好会の誕生
昭和41年(1966)8月	山中湖村平野/白銀荘 (工学部・白山キャンパスの初合同合宿)
昭和46年(1971)	テニス愛好会が同好会に昇格 現在のテニス部(体育会加盟、朝霞キャンパスハードコート)

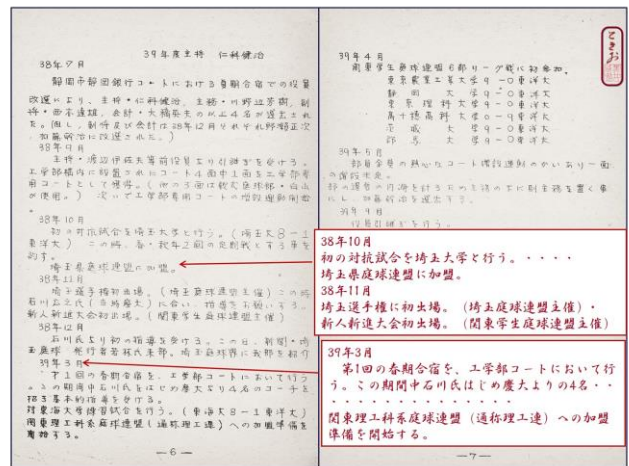


写真-2.3 硬式庭球部「部報」、創刊号(昭和40年)その3

写真-3 硬式庭球部の発足と草創期の活動の歴史



1トの増設運動が開始され、昭和39年に、もう一面のコート増設が決定しました。私が在籍の時(昭和40年)には、二面のコートが使える状態になっていました。現在(平成29年)では、写真4のように、照明付きのテニスコートが整っています(令和3年3月に、砂入り人工芝のテニスコートの改修が完成)。また、この時期に白山キャンパスにおいても、部員勧誘を行い(昭和44年卒業の平氏、山村氏、須山氏)、昭和40(1965)年9月頃?に数名によってテニス愛好会がスタートし、昭和46年にテニス同好会に昇格しました(写真3の表に示すように、現在の白山体育会



写真-4 理工学部テニスコート(2018年8月撮影) 令和3(2021)年3月に人工芝コートへの改修工事終了・4月竣工

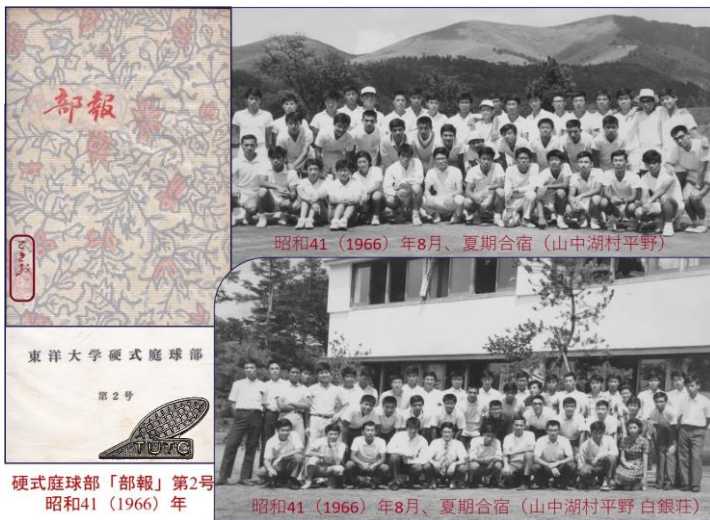


写真-5 硬式庭球部「部報」、第2号(昭和41年)

テニス部に繋がっています)。草創期における硬式庭球部は、昭和38(1963)年7月に関東学生庭球連盟に加盟、同年10月に埼玉県庭球協会に加盟、翌年の39(1964)年3月に関東理工科系庭球連盟(通称、理工連)に加盟と、大学代表のテニス部としての対外試合環境の地歩固めが進められました(写真3)。一方、硬式テニス技術強化の取組みも、創部当初から春期の強化練習(工学部コート)が行われていましたが、夏期の技術強化は、昭和38年7月に初めての合宿が静岡市・静岡銀行テニスコート

最後に、「彩の国さいたま(リーフレット電子版)」にまとめた、(1)川越キャンパスの今昔とキャンパスの学生生活、(2)土木工学科における「土木会」「土木同窓会」の始まり、(3)東洋大学の「硬式庭球部」の始まりなど「思い出のキャンパス初めて物語」が後輩、在学生への有意義な情報になればと思います。

【エピソード】 理工学部硬式庭球部と、白山テニス部の始まりと草創期の活動を創刊号から第8号の「部報」を参考にして綴ってみました。草創期の東洋大学庭球部の歩み(歴史)を辿ってみました。既に、半世紀以上(56年)の時間が経過しており、思い出せないものも多くあり、「部報」と言う記録は本稿をまとめるのに大いに役立ちました。

で、続いて、昭和39年3月に第1回春期合宿が、慶応大学の4名のコーチを迎えて行われています(写真2.2、2.3参照)。また、昭和41年には、創部以来最大の41名の部員による本格的な夏期合宿が山中湖村平野のテニスコートで行われました。合宿(宿泊・平野の白銀荘 or 東照館と思えます?)には、当時2年生の私も参加しましたが、連日の雨で、コート整備・ミーティング続きで大変でした(写真5)。夏期の山中湖合宿(工学部・白山合同、参加者81名)は、昭和46(1971)年まで続けられています。今も、合宿場所などを変えて強化が図られています。